

調査・研修等計画届出書

令和 4年 9月26日

瀬戸市議会議長 様

議員名 小澤 勝 ㊟

政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和 4年10月13日から10月14日まで（1泊2日）	
調査先・研修名	長崎県長崎市（第84回 全国都市問題会議）	
会場名（会場所在地）	長崎県長崎市 出島メッセ長崎	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	第84回 全国都市問題会議 個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～ 第1日 10月13日（木） 基調講演・主報告・一般報告3件 第2日 10月14日（金） パネルディスカッション・行政視察	
議長名の依頼	要・ <input type="checkbox"/> 不要	依頼先（名称）
同行者名	山田治義・宮菌伸仁・高島淳・柴田利勝・三木雪実 長江公夫・富田宗一・小澤勝・西本潤・朝井賢次	

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和 4年 10月 27日

瀬戸市議会議長 様

議員名 小澤 勝 ㊟

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和4年10月13日から10月14日まで（ 1泊2日）
調査先・研修名	第84回全国都市問題会議 研究フォーラム in 長崎
会場名（会場所在地）	長崎県長崎市・ 出島メッセ長崎
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	大会テーマ 個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～ 時代の変化と共に、都市間交流の機会はますます増加している。地域外から訪れる目的や交流の中身も変わっていくことが予想される。この状況のなか、都市が持続的に発展していくには、広い視点で人と地域の様々な関わり方を実現していくことが必要であり、地理的条件や地域資源など、都市の個性を活かした魅力あるまちづくりに取り組み、地域外の人が継続的・定期的に訪れる機会を創出するための方策を検討することが重要である。そのために、実践的な取り組みの事例を踏まえて調査、研修を本市の課題と取り組みに活かすことが目的です。
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	

《基調講演》 高田 旭人 (たかだ あきと)

1979年長崎県生まれ。東京大学卒業後、証券会社を経て、ジャパネットたかたへ入社。ジャパネットたかた取締役副社長を経て、2015年にジャパネットホールディングス代表取締役社長に就任。2019年には通信販売事業に加え、スポーツ・地域創生事業を進め、更にリージョナルクリエーション長崎を設立など現在に至る。

* 講演内容

1. テーマ 民間主導の地域創生の重要性

民間と行政の役割の違いについて、行政は、誰一人としてつまずき立ち止まることが無いよう福祉を充実させ、市民が平等公平に恩恵を受けられるよう環境づくりを目指し、それにより安心できる環境があるからこそ、民間企業は多くのことにチャレンジできるのだと有難さを感じています。一方、民間企業はどうか、企業の役割は「幸福の最大化」、全ての人の願いを平等に叶えることはできないかもしれませんが、社会全体における幸せの総量を増やすことが、民間企業の役割だと思っています。また、良いと思ったものには自らのリスクをとり、最短の意思決定で取り組みことなど公平性に左右されない民間企業だからこそ、行政にはできない思い切った取り組みができ、また取り組む必要があると考えます。

この基本理念のもと、長崎スタジアムシティプロジェクトの構想を取組んでみえます。スタジアムを始め、駐車場料金の在り方、併設するホテル、スタジアムの競技が無い時のイベントスペースとしての多目的利用、また併設するVIPルームのホテル機能化、飲食買い物など商業ビル、オフィスビルなどや、オリジナルブランドビールの製造販売、語学スクールの開設など、スタジアムシティで一日楽しめる楽しい時間に成るような工夫することで、「今を生きる楽しさ」を創造していくこと、地域創生に繋がり、何度でも訪れたい場所にしていきたい思いが伝わってきました。「地域を活性化させる」その思いのゴールは一緒で、行政でないと出来ない交通渋滞をさける交通網対策など共に地域創生を実現させたい思いが伝わってきた基調講演で、どの市町でも抱える課題や構想の大きな考え方の方向性と成りました。

次に、主報告として地元の長崎市長

2. テーマ 長崎市の魅力あるまちづくり

田上 富久（たうえ とみひさ）市長

長崎のまちは、約450年前の開港から現在まで、港を通じて、多くの人々を受入れ交流することで「貿易都市」として栄え、国内外のさまざまな文化を取り入れながら、豊かな個性をもつ都市として発展してきた。第二次世界大戦での戦争被爆地となりながら、「観光都市」として発展してきた。長崎は今、「昭和の観光都市」から変化を遂げ、訪問客や事業者、市民が交流により得られる成果を享受できる調和のとれた「選ばれる21世紀の交流都市」への進化を目指し、交流の幅を広げようとしている。

2015年に世界遺産に認定された「軍艦島」を始めとした、本市の持つ歴史・文化を見直し、「価値を見つける」観点から価値が見えてきた例であるかと思えます。さらに、「長崎さるく」と称して、長崎市に散らばる魅力を見つけながら“ぶらぶら歩く”（さるく）、市民が地域資源の価値に気づくことが市民参加による持続可能な観光につながり、暮らす人にとって気づいていない「価値に気づく」ことで、まちへの愛着に再認識できると考えます。つぎに、価値を磨く取り組みとして景観専門監制度の導入で、市民との協働など職員だけで気づかなかった視点からアドバイスを頂き、長崎駅周辺再整備じぎょうなど市内各地の公園や道路や建物などの整備・改修を進めることで、景観はみて楽しいだけでなく、快適であったり、場所の個性を感じたりと、「価値を磨く」ことで暮らし人にとっても訪れる人にとっても大切なもので、まちの魅力の向上につながっていく。つぎに、基調講演に有りました、新たに創造することにより、「価値を生み出す」という視点が大事だと思えます。地域の課題を発想の転換で資源として捉え、新たな価値を生みだす。スタジアムシティ構想もさることながら、坂のまち長崎ならではの「さかのうえん」という取り組みです。これは、斜面地に老朽空き家除去後の跡地を、農園として有効活用するもので、多世代の交流や地域の活性化が生まれ、地域課題を地域活性化につながる事例は、これからの地方都市の政策のヒントになると思えます。田上長崎市長の講演を聞き、最後に話された、そのまちに根付き、暮らす「土の人」と、そのまちを訪れる「風の人」が、感じるだけでなく、ともにまちを感じ、交流することにより、その都市ならではの自然、文化、歴史などの新しい価値が見つかる

り、磨かれ、まちの価値が創られていく。この言葉は、まちに暮らす人々の思いや愛着が自然と訪れる人にも通じ、共通の価値観の認識と成り、まちの魅力にもなる実践的な実例として捉え、どこのまちも自然、文化、歴史を再認識し新しい価値の創造に向け、施策を構築していく必要と重要性を感じました。

3. そのほかの講演者として

テーマ・地域と新しい関わり方・関係人口

島根県立大学地域政策学部准教授 田中輝美（たなか てるみ）

テーマ・ビジョンを活かしたまちづくり

～「選ばれる山形市」を目指して～

山形県山形市長 佐藤 孝弘（さとう たかひろ）

テーマ・「交流の産業化」を支える景観まちづくり

～長崎市景観専門監の取り組み～

一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事

高尾 忠志（たかお ただし）

以上、3名の方です

令和4年10月14日（金）

《パネルディスカッション》

テーマ 個性を活かして「選ばれる」まちづくり
～何度も訪れたい場所になるために～

コーディネーター

東京都立大学法学部教授

大杉 覚

パネリスト

ゆとり研究所所長

野口 智子

山梨大学生命環境学部教授 田中 敦

NPO 法人長崎コンプラドール理事長

桐野 耕一

岐阜県飛騨市長

都竹 淳也

兵庫県伊丹市長

藤原 保幸

調査・研修の成果・考察

（瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等）

コーディネーターの大杉先生の進行により、各パネリストの研究成果、また取り組みの事例を発表され、今回のテーマである“個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～

今回のテーマにある通り、各市町それぞれの自然や歴史、文化の蓄積があり、そこに暮らす人々があり、そこに生活圏を持つ方々がいかに地域の価値を認識し、それを大きな財産と捉えて見えるか、生まれ育った方、移り住んだ方、何をその地域に求めて移り住まれたか、教育環境か、自然環境か、交通の利便性を求めた交通環境か、世代間によっても考え方、思いの違いが千差万別であると思います。

今感じるその市町、地域の良さ課題などそのある価値を肯定するか否定して課題とするか、個々の価値観の違いで評価は分かれますが、その価値観の背景を見つめなおせば、評価の視点も今一度捉え方が違ってくると思います。自然豊かであれば、自然を活かすこと、史跡、旧跡があれば、その時代背景を見直し、価値を尊重するきっかけにする、古きを知り新しきを創造する。行政と市民と民間企業とが協働して役割を負担し補っていくまちづくりが、個性あるまち、訪れたい町、選ばれるまちにつながると考えます。新しい価値をかんじるには、新しくつくりだす仕掛け、施策が必要で、施策を進めるには市民、地域住民の方々の協力が必要であり、各分野での役割を認め合うことが重要であると、あらため認識しました。

追記

10月12日に天草市に入り、山田団長以下、10名で天草市馬場市長、金子副市長に表敬訪問させて頂き、馬場市長より歓待を頂き、天草市内の加藤民吉翁ゆかりの“東向禅寺”加藤民吉翁の記念碑など市の学芸員の方にご案内頂き、併せて市内で創作活動されている窯元さんをご紹介頂き、現在の天草焼の一部を垣間見ることができ、非常に有意義な視察に成りました。

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jordan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
4	中部国際空港	飛行機	片道	熊本空港	603	km	31,640	円	円
年						km		円	円
10						km		円	円
月						km		円	円
12						km		円	円
日付	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
	ANAクラウンプラザホテル長崎				095-818-6601		円		
備考欄									

31,640 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
4						km		円	円
年						km		円	円
10						km		円	円
月						km		円	円
13						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
	ANAクラウンプラザホテル長崎				095-818-6601		円		
備考欄									

小計 0 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
4	長崎駅ターミナル	バス	片道	長崎空港		km	1,000	円	円
年	長崎空港	飛行機	片道	中部国際空港	671	km	34,240	円	円
10						km		円	円
月						km		円	円
14						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
							円		
備考欄									

バック等による割引など

小計 35,240 円

5,190 円

宿泊費 合計

交通費 合計

0 円

66,880 円

申請額合計
(宿泊費+交通費-割引代)

61,690 円